

2013年6月14日

報道関係各位

千日町1・4番街区再開発協議会

### 「千日町1・4番街区再開発協議会」の設立について

昨年8月に千日町1・4番街区の地権者全員により発足した「天文館まちづくり研究会」では、勉強会やヒアリングなどを実施しながら、天文館における将来のまちづくりのあり方や、再開発の可能性について検討を行って参りました。そして本年3月開催の第5回研究会にて、会員全員の総意の下、事業化を目指した更なる検討を進めること、及び新たな組織体制とすることを決定し、「千日町1・4番街区再開発協議会」を設立することになりましたので、お知らせいたします。

#### ■活動の背景

天文館地区は、これまで南九州最大の商業集積地として地域の賑わいを牽引してきましたが、ここ数年来続く経済の低迷や大規模商業施設の郊外出店の影響等により、中心市街地の勢いが低下してきており、まちづくりや地域経済の観点からも大きな課題となっています。そこで、天文館地区の中心に位置する千日町1・4番街区の地権者が集まり、今後の天文館の将来及び自分達の果たすべき役割や方向性について考えることを始めました。

#### ■研究会の活動について

九州新幹線や九州縦貫道路、そして鹿児島港など国内外の交通アクセスの整備も進み、九州では福岡に次いで国際会議観光都市として位置づけられ、また雄大な桜島をはじめ恵まれた自然と多くの特産物を誇るこの「鹿児島」を改めて見つめ直した上で、研究会ではその中心市街地が今後どうあるべきかを議論しました。その上で天文館の現状や課題を洗い出し、鹿児島市のみならず、将来の鹿児島県全体の地域振興のために、南九州で最もポテンシャルの高い商業集積地である天文館、そしてその中心にある千日町1・4番街区が果たすべき役割について、議論を重ねて参りました。それと並行して、行政の支援も頂きながら、市街地再開発事業（法定再開発）の仕組みについても勉強を重ねて参りました。

また、本案件が今年度の鹿児島市中心市街地活性化基本計画に「検討事業」として位置付けられたこともあり、研究会としては、これまで天文館に蓄積されてきた商業集積のポテンシャルを生かしながら、今回の活動を新たなまちづくりの契機として、この地における再開発の姿を継続検討していくこととなりました。

#### ■開発構想について（天文館、鹿児島市、鹿児島県の活性化を目指して）

研究会では、市街地再開発事業（法定再開発）の制度への理解を進める一方で、この地区の立地特性、現状に対する理解を深めながら、県および市の上位計画等も踏まえ、将来構想に関する議論を行いました。その結果、開発構想として浮かび上がったのは、商業・飲食機能を中心としつつ、宿泊、コンベンション、業務、サービス等の多様な機能を内包

し、かつまちの核として賑わいを再び呼び起こし、更には回遊性の向上など、現在の天文館地区全体の活性化にも寄与するような複合施設の開発像です。

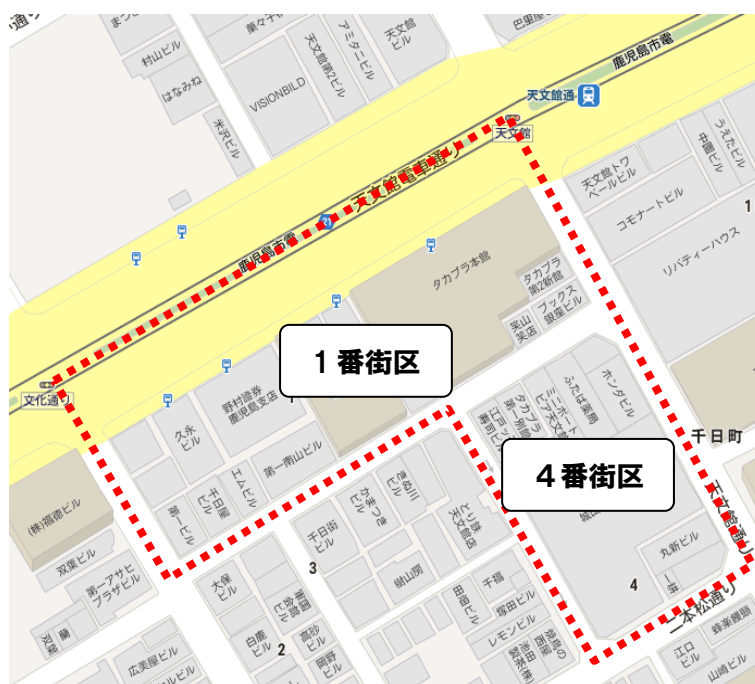
市民、県民、観光客の方々が「楽しさ」、「ときめき」、「快適さ」を感じ、そこで生まれるエネルギーが地域にさらなる活力を生み出し、天文館から鹿児島市、そして鹿児島県全体、更にはこの南の地から全国へと活力を発信できるような再開発になればと考えております。

今後はこの開発構想をもとに、天文館が賑わうことで鹿児島市の活性化に寄与し、ひいては鹿児島県全体への貢献も視野に入れ、開発構想の具体化に向けた検討を行う予定です。

#### ■今後の活動について

当協議会の設立後は、行政が実施する基本計画調査との連携、アドバイザー制度の活用、協議会協力者の支援も受けながら、開発ポテンシャルの調査・確認、地権者の意向調査、行政手続きの確認などを中心に今後の活動を進めていく予定です。

<地区の概要>



- 【地区の所在地】 : 鹿児島市千日町 1 番および 4 番街区
- 【地区の面積】 : 1 番街区 3,516.59 m<sup>2</sup>  
4 番街区 2,334.07 m<sup>2</sup> (共に登記簿面積)  
(道路中心線で結んだ地区の面積 : 約 0.9ha)
- 【協議会参加者】 : 17 者
- 【協議会所在地】 : 鹿児島市千日町 1-12
- 【協議会協力者】 : 株式会社鹿児島銀行、株式会社鹿児島経済研究所、  
株式会社大林組
- 【再開発コンサルタント】 : 株式会社アール・アイ・エー